



出火原因を知って 火災を減らそう

風が強くなり空気も乾燥してくるこの時期は、大変火災が起きやすい状況になっています。

昨年1年間に市内で発生した火災は24件。これらは、火の不始末だけではなく、「放火および放火の疑い」が原因とされているものもあります。

火災予防運動を機会に、皆さんも、火災予防のため部屋の中や家の周りを今一度、点検しましょう。

問合せ 消防課 ☎281-0119

過去に市内で発生した火災の状況を見ましょう。過去5年の火災件数と死者数は、図1の状況となっています。

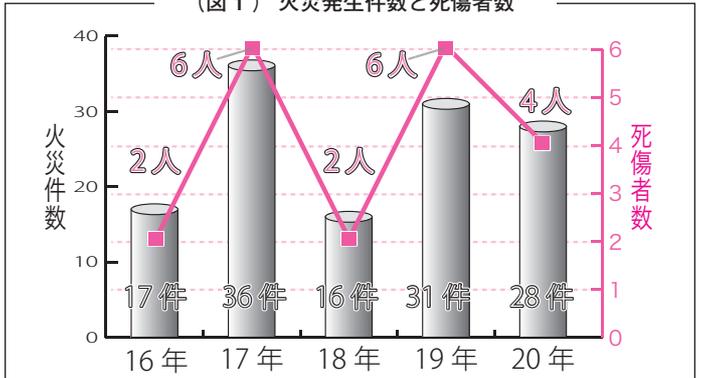


市内で起きた 火災の被害状況

過去に市内で発生した火災の状況を見ましょう。過去5年の火災件数と死者数は、図1の状況となっています。



(図1) 火災発生件数と死傷者数



また、死傷者の数については、毎年複数の死傷者が発生しています。



火災が起こる 原因と時間帯

また、死傷者の数については、毎年複数の死傷者が発生しています。

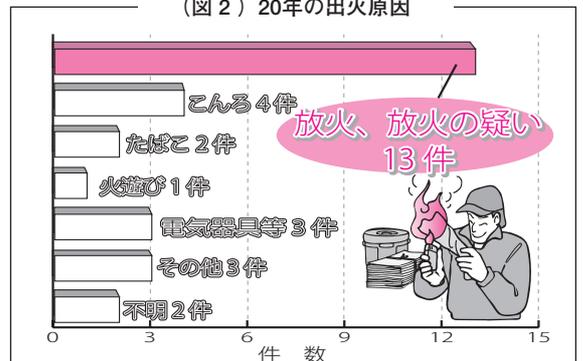
20年中に発生した28件の火災の出火原因(図2)をみると、「放火および放火の疑い」が13件で、原因の約4割を占めています。

時間帯別の火災発生状況を見ると(表1)、午前0時から4時の間に9件と、ほかの時間帯と比べ多いことが伺えます。この原因は「放火および

(表1) 20年の時間帯別火災件数

時間帯	件数	原因
午前0時～4時	9件	放火・放火の疑い9件
4時～8時	1件	こんろ1件
8時～正午	4件	こんろ1件、電気器具等1件、火遊び1件、その他1件
正午～4時	7件	放火・放火の疑い1件、たばこ2件、電気器具等1件、その他2件、不明1件
4時～8時	5件	放火・放火の疑い2件、こんろ1件、電気器具等1件、不明1件
8時～午前0時	2件	放火・放火の疑い1件、こんろ1件

(図2) 20年の出火原因



び放火の疑い」であり、人々が寝静まった夜中に不審者による放火などが多く発生していることがわかります。



「消えるまで ゆっくり火の元 ならめっ子」

春季全国火災予防運動

3月1日(月)～7日(日)

3月1日(月)～7日(日)の7日間、春季全国火災予防運動期間中に次の事業を行います。

◆**防火対象物の立入検査**
消防防災体制の充実を図るため、消防用設備や、防火管理体制の立入検査を行います。対象施設 老人福祉施設等の災害時要援護者が利用する施設(特定用途防火対象物)

◆**一般住宅の防火診断**
一般住宅の住宅防火診断を行い、火気取扱状況の診断や、防火指導、住宅用火災警報器の設置推進活動などを行います。

対象地区 本町1丁目および本町2丁目地区

◆**平成22年消防訓練**
日時 3月7日(日) 午前9時～11時半

場所 南鳩ヶ谷駅東口内
内容 地下鉄構内における多数負傷者発生時の想定で以下の訓練を行います。

- 避難誘導訓練
- 初期消火訓練
- 応急手当訓練
- トリアージ訓練(「重症度」「緊急度」の観点で負傷者を選別(トリアージ)し必要な救命処置を実施し医療機関に搬送する)

お話を伺いました

市民の方に伺いました。

「ご家庭では、どのような火災の予防策をとっていますか？」

込田 春美さん (本1)



幼い頃、母に教えられたことを実践しています。

「いつもバケツとやかんには水を張っておく」「寝る前はガス栓を締め外出する時はコンセントを抜く」「お米は常に備えておく」

当たり前のことですが毎日実践することが我が家の火の用心です。

消防団員の方に伺いました。

「火災防止に関して、消防団員になってから感じたことはありますか？」

消防団第一分団 花岡 巖さん



地域の皆さんへ少しでも安心した暮らしのお手伝いのできればと思いい、40歳を過ぎてから消防団に入団しました。

まだ間もないのですが、火災予防の広報活動や市内各所に設置してある消火器の点検などを実施しています。防災力は、地域や住民間の繋がりがとても大切だと感じました。

皆さんにも、いざという時のため、日頃から家族で、火災予防などについて、話す機会を増やしていただきたいですね。

住宅防火

いのちを守る **7** つのポイント

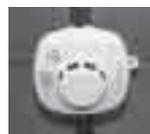
3つの習慣

- 1 寝たばこは、絶対にやめる。
- 2 ストープは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
- 3 ガスコンロなどのそばを離れるときは、必ず火を消す



4つの対策

- 1 逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。
- 2 寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、防災製品を使用する。
- 3 火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器等を設置する。
- 4 お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる。



「家の周りに燃えやすいものは置いていないか」「ゴミは収集日の決められた時間以外に出していないか」
出火原因として多い「放火や放火の疑い」を防ぐにはこういった注意が必要です。
そのほかの出火原因についても、家の周りや部屋の中を点検し火災を防ぎましょう。

◆**7つのポイントを実践しよう**
火災原因から火災を防ぐだけでなく、「住宅防火の

ちを守る7つのポイント」を実践することで、火災の発生を予防したり、被害を少なくすることができま。

このうち、「住宅用火災警報器の設置」は、火災発生を早期に知らせ、火災で逃げ遅れないためにも大切なものです。一般住宅には設置が義務付けられていますので、早期に取り付けましょう。

そのほか高齢者に多く見られるのが着衣着火です。着衣に火が燃え移ると、火傷を負う可能性が高く非常に危険です。衣類や寝具には防災製品を使用し、着衣着火を防ぎましょう。